

東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター 基盤づくりの取り組み

○佐藤紀子、梶井文子、佐竹澄子、高橋衣、嶋澤順子、清水由美子、永澤成人⁴⁾、細坂泰子、谷津裕子、山下真裕子、室岡陽子、山本伊都子、志村友理、北素子、荒谷美香³⁾、渡部雅代¹⁾、花岡一成²⁾、櫻井尚子、内田満

- 1) 慈恵第三病院看護部
- 2) 慈恵第三病院総合診療部
- 3) 慈恵第三看護専門学校
- 4) 前看護学科教員

I. 序論

東京慈恵会医科大学は、2018年、地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える活動を組織的かつ研究的に展開することを目的に、地域連携看護学実践研究センター（The Jikei University, Academic Nursing Practice Center for the Community, 以下 JANP センター）を設立した。活動開始初年度（2018年度）は、ニーズ調査、キックオフミーティング、広報活動を実施し、着実にそれぞれの活動成果を上げることができた。こうした流れを受け、2019年度からの本格始動に向けて「みんなの活動」「みんなの保健室」「みんなのまなび場」の各部門と活動を支える「ニーズ・リソース・マッチング」「広報」のふたつの班が協働し、プロジェクト活動を計画した。本計画の実施は、地域住民の健康と生きる力を支える看護を実現するという JANP センターの設立目的の実現に向けた重要な第一歩であり、その成果は今後の活動計画の貴重な基礎資料として活用されている。なお、この取り組みは2018年度2019年度の2年間にわたり、看護学科特別研究費の助成を受けて実施した。

II. 方法

【プロジェクト1：みんなの活動】では、今後の地域の社会資源としての人材育成のための様々なボランティア活動の拠点となるボランティアセンターとしての機能の確立に向けて、学生や教員が、様々な住民・専門職等の支援活動に主体的にボランティア参加し社会貢献すること支援するとともに運用システムを作成した。

【プロジェクト2：みんなの保健室】では、簡単な健康チェックと情報収集・交換の機会を通じて、地域住民自身や家族の健康づくり、プライマリレベルの相談の場となることを目的に、定例保健室の設置あるいは出張での開催を実施した。

【プロジェクト3：みんなのまなび場】では地域住民や専門職者への情報共有の機会拡大に向けて看護学科教員による個別のセミナー活動等を物的・財政的に協賛支援する計画を、それぞれ立案し実施した。

以上の3部門と連携し計画を推進する a. ニーズ・リソース・マッチング班, b. 広報班の2つを設置した。具体的な活動は以下の通りである。

III. 結果

2018年度の準備期間を経て、2019年度の活動内容は以下の通りであった。

A. みんなのまなび場部門

市民公開講座を3回主催・共催した。

B. みんなの保健室部門

みんなの保健室を4回開催した。

C. みんなの活動部門

ラグビーワールドカップの観客対応、本院参加病棟の引っ越しのボランティア活動を実施した。災害支援ボランティア活動に必要な備品や情報の周知も行った。

D. 広報班

大学HP内にJANPセンターのページを開設した。JANPセンターロゴマーク印鑑、ロゴマークシール、JANPセンター横断幕の作成も行った。

E. ニーズ・リソース・マッチング班

ニーズ調査を実施した。日本看護学教育学会第30回学術集会への交流セッションへの参加準備も行った。

F. 組織横断的活動

1. メヂカルフレンド社看護展望7月号でJANPセンターが紹介された。
2. The JIKEI 33号(2019/Summer)でJANPセンター「院内から地域社会へー新しい看護医療のカタチー」が特集された。
3. 地域の各種イベントで講演を行った。
 - a. 同窓会北多摩支部講演会
 - b. 第三病院医療連携フォーラム
 - c. 調布ナースの会発足記念講演会
 - d. あいとびあ地域包括支援センター家族介護者教室
 - e. 狛江市「ふらっと移動市長室」
 - f. 電通大学主催ボランティア養成講座

IV. おわりにーその後の活動ー

2018年度のキックオフ、2019年度の活動を基盤として2020年度も3部門2グループが協働し、「地域住民の生きる力を看護の力で支える」活動を推進している。2020年度はCovid-19の感染拡大に伴い、第三病院看護部への応援、JANP遊び場保育室、専門学校への遠隔教育の支援、葛飾医療センターの新人看護師支援等の活動を行った。また「みんなの学び場」ではパンフレットを作成し配布、「みんなの保健室」は遠隔で実施するなどの活動へと繋がっている。2018年度に引き続き2019年度も東京慈恵会医科大学医学部看護学科特別研究費を活用した活動ができましたことに委員一同、心より感謝申し上げます。